

本買ふは業ごころにも似たり鰯雲

藤田湘子

おもわず「そうだよな」と頷いてしまう。カルマとも呼ぶべきか、宿命なのか、部屋いつぱいの本がありながら、それでも直に見たり手に取ってしまうとまた買わずにはいらなくなるのである。

若い頃貧しく、あるいは物資不足で好きな本を買えなかった反動があるのかもしれない。身近に置いて何度でも読み返したいと、つい思ってしまうのである。しかし、一度買って自分の物にしてしまうと、案外読書欲は薄れ、途中で飽きたり、一二度読み飛ばしただけで積ん読や箱入りになってしまったりする。これは確かに前世の業かもしれない。

読書の秋。「鰯雲」の季語が鮮やかである。

2004年 (H16) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩